

(様式第4号)

上田中央地域協議会 会議概要

1 審議会名	上田中央地域協議会
2 日時	平成30年3月6日 午後1時30分から午後4時00分まで
3 会場	市民プラザ・ゆう 2階 会議室
4 出席者	伊藤委員、大谷委員、金井喜兵委員、金井忠一委員、小林委員、小山委員、斉藤委員、志摩委員、谷藤委員、中澤委員、成澤委員、樋村委員、藤木委員、古川委員、増田委員、丸山委員、山浦委員
5 市側出席者	(事務局) 竜野中央地域振興政策幹、武捨課長補佐兼地域内分権推進担当係長、樋口地域内分権推進担当主事 (回答担当課) 酒井高齢者介護課長、竹内交通担当政策幹、斉藤高齢者支援担当係長、朝日交通政策係長
6 公開・非公開	公開 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成30年3月19日

協議事項等

会議次第

1 開会

2 会長あいさつ

3 協議

(1) 提言に対する回答について(回答担当課: 高齢者介護課、管理課)

- ・ 回答担当課から回答書に基づいて、説明
- ・ 以下、質疑応答

(委員) 高齢者にやさしい運賃体系について研究していくということだが、運賃低減バスの実証運行が終了するまでにそのような運賃体系ができるということで良いか。

(管理課) 運賃低減バスの実証運行の期間が平成31年9月末で終了となるので、その時期を見据えて、研究結果をお示しできるよう努めてまいりたいと考えている。

(委員) 庁内関係部局との連携を図り、より機能的な支援策について研究してまいりたいと考えていくということだが、具体的にはどの課が事務局となるのか。

(高齢者介護課) 運転免許の返納となると基本的には管理課になるが、主に高齢者という視点で捉えると高齢者介護課であると認識している。まずは住民で出来る交通サービスはどのようなものがあるかということについて、皆様と一緒に勉強会など開くなど、こちらから歩み寄るような形で対応していきたい。

(委員) 日常生活圏域毎に生活支援コ-ディネーターを配置し、専門職・住民等による地域課題を話し合うための協議体の設置というのは、とても大切な事であると思うが、先進地を参考にしながら検討しているのか。

(高齢者介護課) 生活支援体制の事業は、平成26年から徐々に市町村毎に始めている状況。上田市では第1層を市全域ということで、市職員や社協、地域包括職員により、ざっくりとした組織を作っている。そこで協議を行い、第2層を組み立てていくという段階。他の自治体では、組織だけを作って、機能していない所もあるため、時間はかかっているが、なるべく実のあるものにしていきたい。先進事例はいくつかあるが、上田市にそのまま活用できるものではないので、上田市にあったものを作っていかねばと感じている。

(会長) 1ヶ月に何回バスを利用しているのか。また、どの辺に不便さを感じるか。

(管理課) 業務のためも含め、平均すれば1週間に2回程度乗っている。物理的な機能性については、ステップが高いということや車内のポールが邪魔、またはもっとあった方が良いと感じることがある。

(会長) 75歳以上の方が免許の返納対象になっているが、その方々のうち運転に不安を感じていない人達は、平成27年度の段階で6割を超えているので、免許を返納しないのが現状。また、75歳以上の方の免許保有率は5.8%。これらの状況を考えた時に、高齢者の免許返納をする対象や免許保有率はかなり少ない数字になってくるので、バスの運行部分と免許の返納部分を並行して考えられてしまうと利潤が上がらないのではないかと。タクシーという一つの方法もある中で、本当にバスの代替えで良いのだろうかと思う。さらに、車を保有するためにかかるお金と一般の公共交通機関を利用するために支払う1ヶ月のお金はどちらが得なのかを提示すると変わってくると思う。福祉有償運送サービスの話もあったが、運送サービスをやめている法人も多いので、必要に応じて利用しやすいサービスを提供しなければならないと思う。また、研究するとあるがいつまでに研究結果がいただけるのか、期限についてきちんと表現していただきたかった。

(高齢者介護課) 現在生活支援体制整備を進めているところであり何年後に回答ができますという表現をするのは難しいが、例えば1年後に今はこのような状況ですという報告はできるかと思う。御提言のとおり、警察や商工団体を入れるべきかどうかは現在何とも言えないが、想定されるメンバーの中には、地域の商工業者も入ってくるのではないかと。

(委員) 実際に利用する高齢者の意見を取り入れて検討していただき、期限を決めた上で早めに実施してほしい。

(管理課) 利便性の向上や低価格の要望などについて、総合的に検討する必要がある。他自治体の事例も参考にしながら研究してまいりたい。また、地域交通の関係について、上田市公共交通活性化協議会が20を超える団体によって組織化されている。この組織があることを勘案すると、御提言の協議会の組織化については、慎重に検討する必要があると考えている。

(2) わがまち魅力アップ応援事業の審査について

- ・平成30年度わがまち魅力アップ応援事業 第1回募集において申請のあった新規事業2件について、プレゼンテーションによる審査会実施（非公開）

(3) その他

- ・特になし

4 その他

- ・特になし

5 閉 会